幼児教育から小学校教育へ
架け橋期のカリキュラム

育ちと**学び**を豊かにつなぐ
豊見城市保幼こ小連携・接続ガイド

令和７年３月　豊見城市幼児教育センター
（こども未来部保育こども園課　教育委員会学校教育課）

目　次

はじめに

１　幼児教育の基本について

○幼児教育において大切にしたいことは？・・・・・・・・・Ｐ１

○幼児期の教育における見方・考え方、学びのプロセス・・Ｐ１

○幼児教育において育みたい資質・能力・・・・・・・・・Ｐ２

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）　・Ｐ３～P4

２　保幼こ小連携・接続について

〇なぜ保幼こ小の連携・接続って大切なの？・・・・・・・Ｐ５

〇１年生はゼロからのスタートではない・・・・・・・・・Ｐ６

３　架け橋プログラムについて

〇架け橋プログラムとは？・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７

○架け橋で何をつなぐの？・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７

○今までと何が違うの？・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８

４　架け橋期のカリキュラムの作成に向けて

①フェーズ１　基盤づくり・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ９

②フェーズ２　検討・開発・・・・・・・・・・・・・・・・P10

③フェーズ３　実施・検証・・・・・・・・・・・・・・・・P11

④フェーズ４　改善・発展・・・・・・・・・・・・・・・・P12

◆　参考様式・資料等

〇豊見城版架け橋期のカリキュラム【小学校】

〇架け橋期のカリキュラム【小学校（解説）】

〇豊見城市架け橋期のカリキュラム【就学前教育・保育施設】

〇架け橋期のカリキュラム【就学前教育・保育施設（解説）】

〇上田小学校区架け橋期のカリキュラム【小学校】

〇上田小学校区架け橋期のカリキュラム【就学前教育・保育施設】

〇沖縄県黄金っ子架け橋サポートガイド　ワークシート2

ワークシート3～5(3)

ワークシート７(1)(2)

〇小学１学年スタカリ期小学校訪問＜参観シート＞

〇公開保育参観シート

〇架け橋タイム゜ワークシート①（保育デザインマップ）

〇架け橋タイム　ワークシート②（大切にしたいこと）

〇豊見城市保幼こ小連携推進事業　交流活動記録簿

はじめに

本市の保幼こ小連携・接続（以下「連携・接続」という。）の取組においては、平成28年開始からこれまでの間、行政と各保育園（所）・幼稚園・認定こども園（以下「幼児教育施設」という）・小学校の連携担当者が中心となって、各小学校区ごとに保幼こ小の連携体制を構築してきました。また、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、「豊見城市接続期カリキュラム基本モデル」を作成し、各保育園（所）・幼稚園・認定こども園（以下「幼児教育施設」という）・小学校においても接続期カリキュラム（幼児教育施設はアプローチカリキュラム、小学校はスタートカリキュラム）の作成がなされ、子供たちの交流活動をはじめ、保育・授業参観、情報交換会等の取組が充実してきています。

さらに、文部科学省においては、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の２年間を、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期（以下「架け橋期」という）と位置づけ、令和４年３月に「幼保小の架け橋期プログラムの実施に向けての手引き（初版）」が策定されました。また、沖縄県においても、令和５年１０月に「保幼こ小の育ちをつなぐ 黄金っ子 架け橋サポートガイド」が策定され、架け橋期のカリキュラムを作成・実施する取組が推進されています。

そのため、本市においても国や県の動向を踏まえ、各小学校区において幼児教育施設と小学校が連携・協働し、各地域の実態に合わせた独自の「架け橋期のカリキュラム」作成・実施を進めていく手掛かりとなるよう、本ガイドを作成しました。

本ガイドブックが、各園・小学校及び小学校区内における研修会等で活用され、保幼こ小の先生方が立場を超えて互いを尊重し、対話を通した架け橋プログラムの推進及び架け橋期のカリキュラム作成・実施の一助となることを願っています。

令和７年３月　豊見城市幼児教育センター
（こども未来部保育こども園課　教育委員会学校教育課）

1　幼児教育の基本について

○幼児教育において大切にしたいことは？

幼児期の教育は、**生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの**であり、幼児期の特性を踏まえ、**環境を通して行うもの**であることを基本とする。

ポイントは

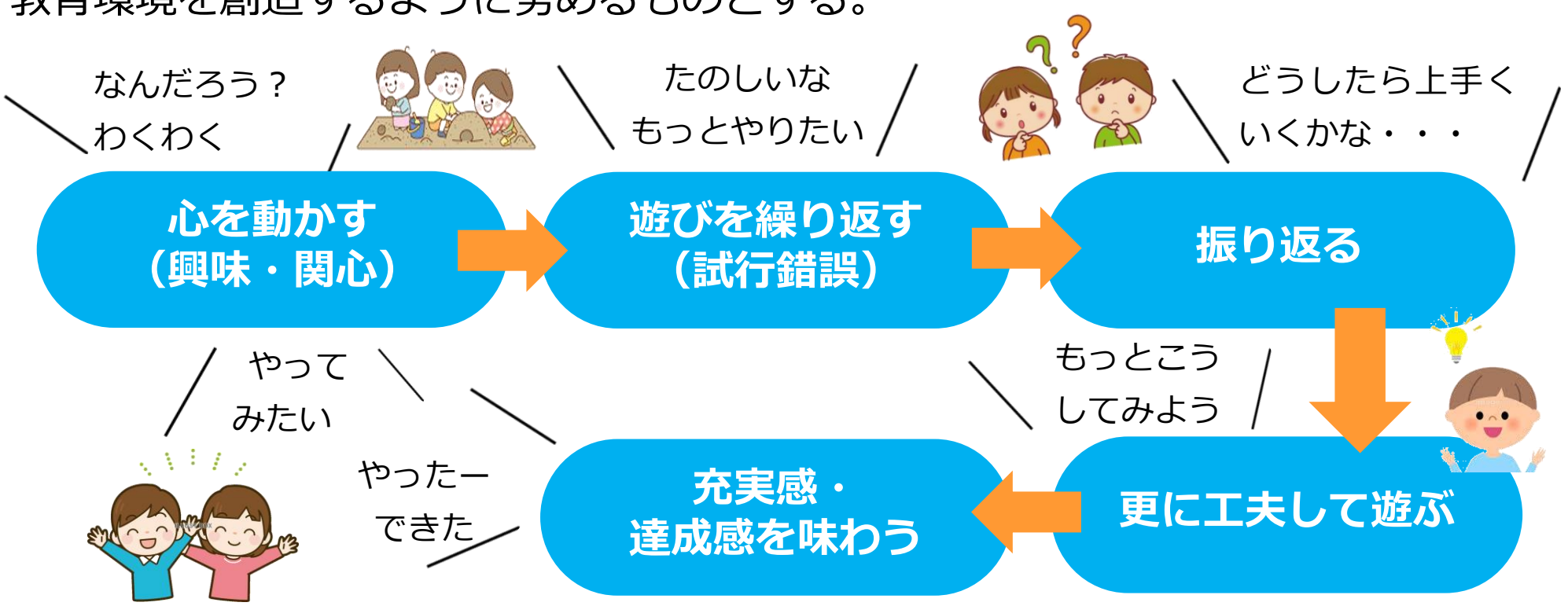
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月31日同日に告示・平成30年4月1日実施）の**内容について一層の整合性**を図りました。

- **幼児期にふさわしい生活の展開**
- **遊びを通しての総合的な指導**
- **一人一人の特性に応じた指導**

保育所（園）・幼稚園・幼保連携型認定こども園**施設類型に関わらず、幼児教育で大切にしたいことは同じ**です。保育者は、**幼児が発達に必要な体験をつみ重ねていくことができるよう、環境の構成を行うことが大切**です。

○幼児教育の見方・考え方、学びのプロセス

幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。



○幼児教育において育みたい資質・能力は？

幼児期は、知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で**自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、**この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期です。

知識・技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。

- 基本的な生活習慣
- 生活に必要な技能の獲得
- 身体感覚の育成　・多様な動き
- 規則性、法則性、関連性等の発見
- 様々な気付き、発見の喜び
- 日常生活に必要な言葉の理解
- 芸術表現のための基礎的な技能　等

知識・技能の基礎

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

- 試行錯誤、工夫
- 予想、予測、比較、分類、確認
- 他の子どもの考えなどに触れ、新しい考えを生み出す
- 言葉による表現、伝え合い
- 振り返り、次への見通し
- 自分なりの表現
- 表現する喜び　等

遊びを通しての総合的な指導

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする。

- 安定した情緒　・興味・関心　・好奇心　・探究心　・粘り強さ
- 自信　・葛藤、自分との向き合い、折り合い
- 感情や行動のコントロール　・思いやり　・受容　・協力
- 話し合い、目的の共有　・表す喜び
- 色、形、音等への美しさや面白さに対する感覚
- 自然現象や社会現象への関心　等

学びに向かう力・人間性等

ポイントは

○これらの資質・能力は、**幼稚園教育要領等に示すねらい及び内容に基づた活動を通して**育まれます。

○幼児教育の特性から、これらは個別に取り出して身に付けさせるものではなく、**遊びを通しての総合的な指導を行う中で、一体的に育んでいくことが重要**です。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）

幼稚園教育要領等に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、**幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿**であり、特に５歳児後半に見られるようになる姿です。

１０の姿が見られるようになるためには、**遊び込みが大切**なんだよ。Ｐ１で示した「幼児教育の見方・考え方」「学びのプロセス」が基本となるよ。

１０の姿の考え方

★到達目標ではなく、**方向目標**であること。
★**１項目ずつ取り出して指導したり、評価したりするものではない**こと。
★**全ての子どもに同じように見られるものではない**こと 。
★**それぞれの時期にふさわしい遊びや生活を積み重ねること**により、見られる姿であること。

①健康な心と体

○**園の生活の中で、**充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出**すようになる。**

②自立心

○**身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、**しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めず　にやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動する**ようになる。**

③協同性

○**友達と関わる中で、**互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げる**ようになる。**

④道徳性・規範意識の芽生え

○**友達と様々な体験を重ねる中で、**してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったり**するようになる。**

⑥思考力の芽生え

○**身近な事象に積極的に関わる中で、**物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにする**ようになる。**

⑦自然との関わり・生命尊重

○**自然に触れて感動する体験を通して、**自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心　を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わる**ようになる。**

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

○**遊びや生活の中で、**数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつ**ようになる。**

⑨言葉による伝え合い

○**保育教諭等や友達と心を通わせる中で、**絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ**ようになる。**

⑩豊かな感性と表現

○**心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、**様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつ**ようになる。**

各項目全ての語尾が**「ようになる」**と示されているのは、幼児教育ならではの特徴である**「過程の体験を重視する方向目標だから」**なんだね。

ホントだね！それと、全ての項目の書き出しに、**「～の中で・・・」「～を通して・・・」**とあるのも特徴的だね。これは、**どのような場や状況の中で１０の姿（資質・能力）が育まれるのか**を示しているんだよ。

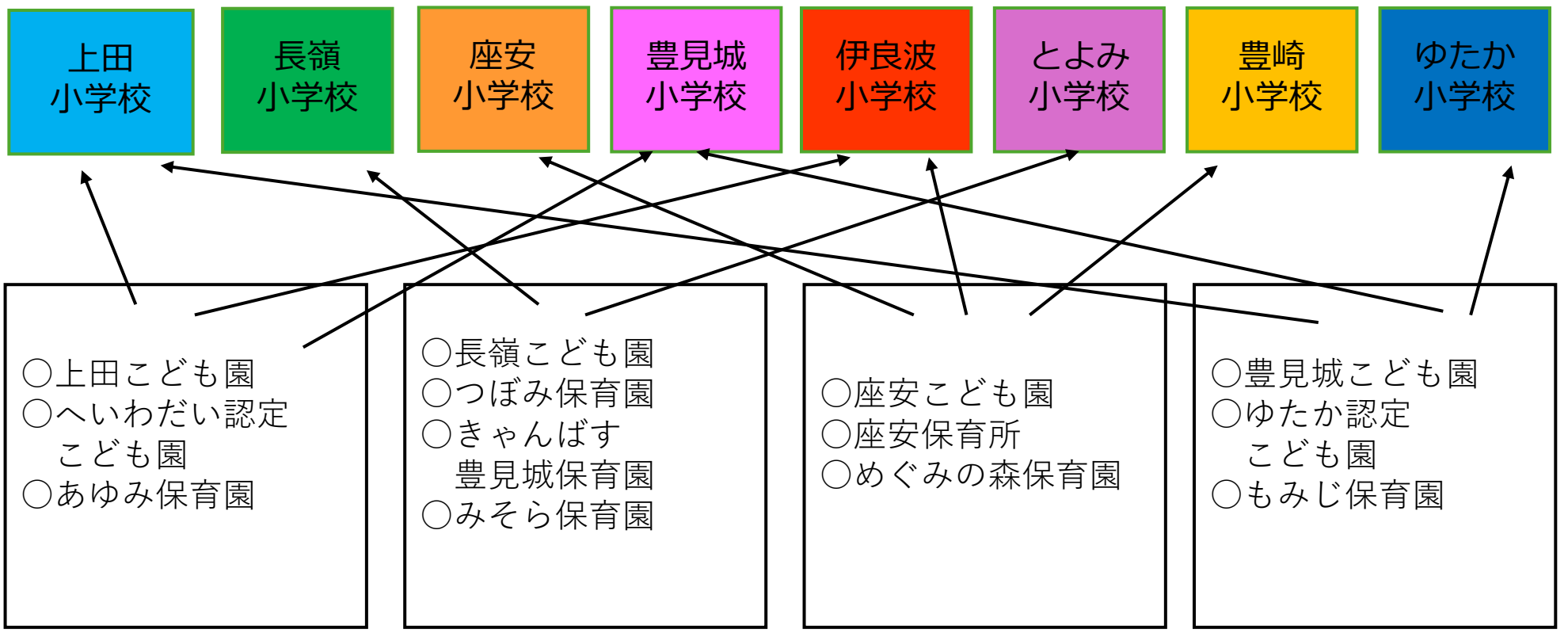
幼児期にもっとも大切なのは、いろいろなことに興味を持ち、人と関わる楽しさを知り、**人や社会の中でよりよく生きていく力の基礎を育むこと**です。そのことが将来の豊かな学びにつながっていきます。

2　保幼こ小連携・接続について

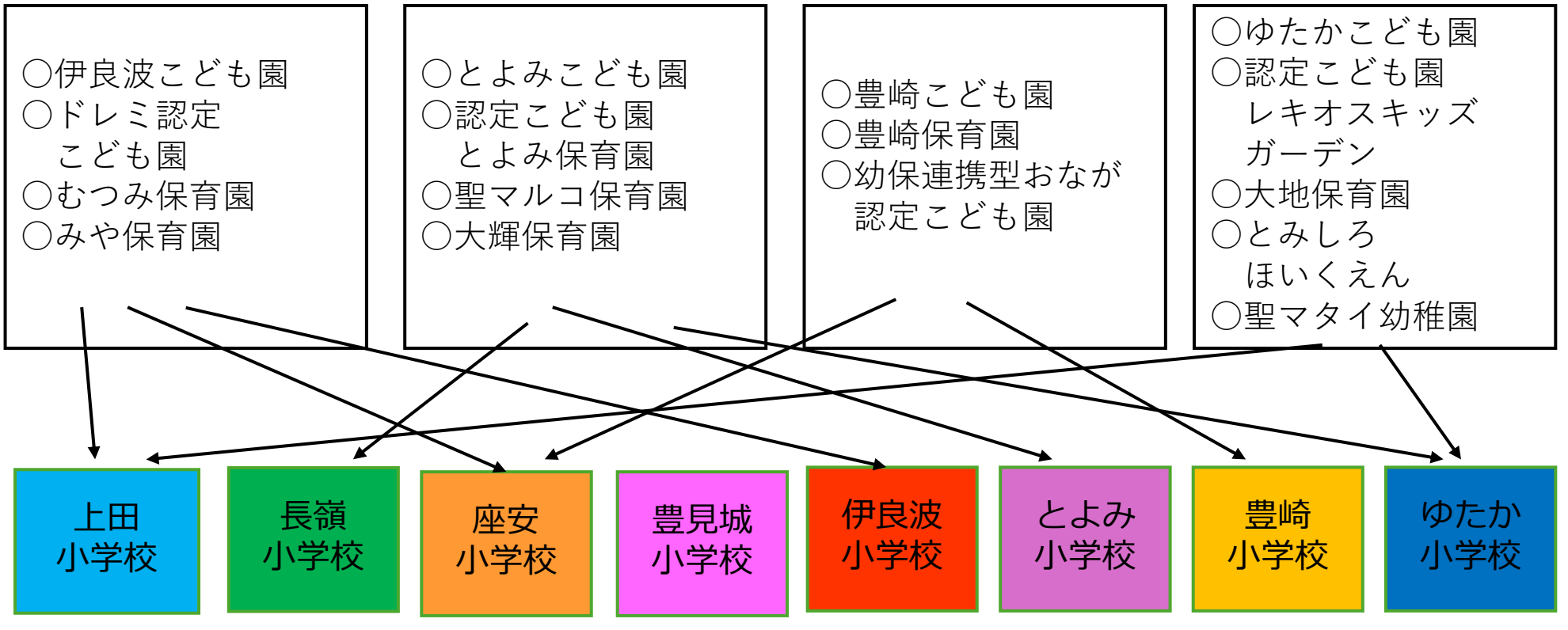
○なぜ保幼こ小の連携・接続って大切なの？

　幼児期の子供たちが過ごしてきた環境は、幼稚園や認定こども園、保育所（園）、家庭など多種多様であり、経験や体験などにも個人差があります。そのため、就学前施設と小学校が連携体制を構築し、**子供を真ん中に置いた対話を通して共通理解**を図りながら、子供の**育ちと学びのつながりを見通した取組の工夫と充実**を図る必要があります。

※図の矢印は、イメージです。

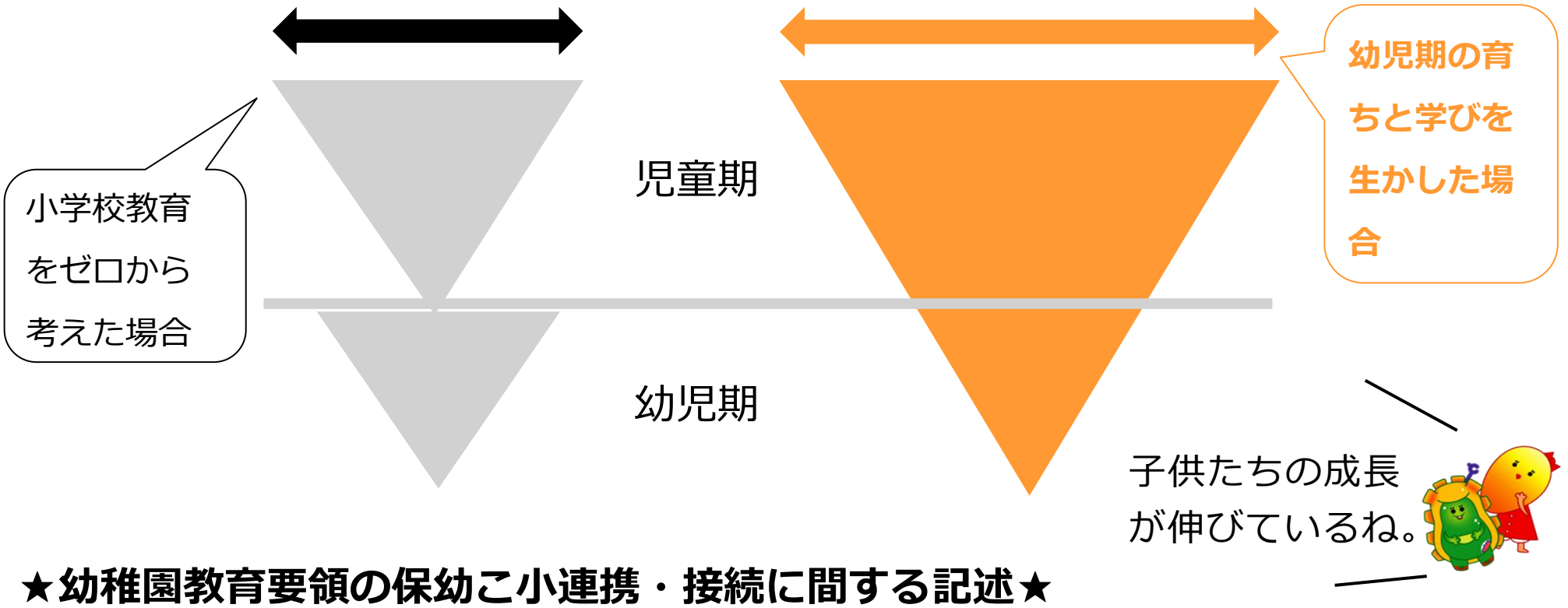


小学校への入学状況が多様であることを考慮



○１年生は、ゼロからのスタートじゃない

　小学校へ入学する子供たちは、保育所（園）・幼稚園・こども園・家庭・地域などで様々な体験を通して学んできています。**幼児期で培ってきた育ちや学びを小学校以降の生活や学習へ生かしていくこと**で、子供たちの成長は更に伸びていきます。



★幼稚園教育要領の保幼こ小連携・接続に間する記述★

　幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

★小学校学習指導要領の保幼こ小連携・接続に間する記述★

　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。ー略ー

　特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

3　架け橋プログラムについて

○架け橋プログラムって何？

文部科学省：「幼保小の架け橋プログラム」
豊見城市：「保幼こ小の架け橋プログラム」

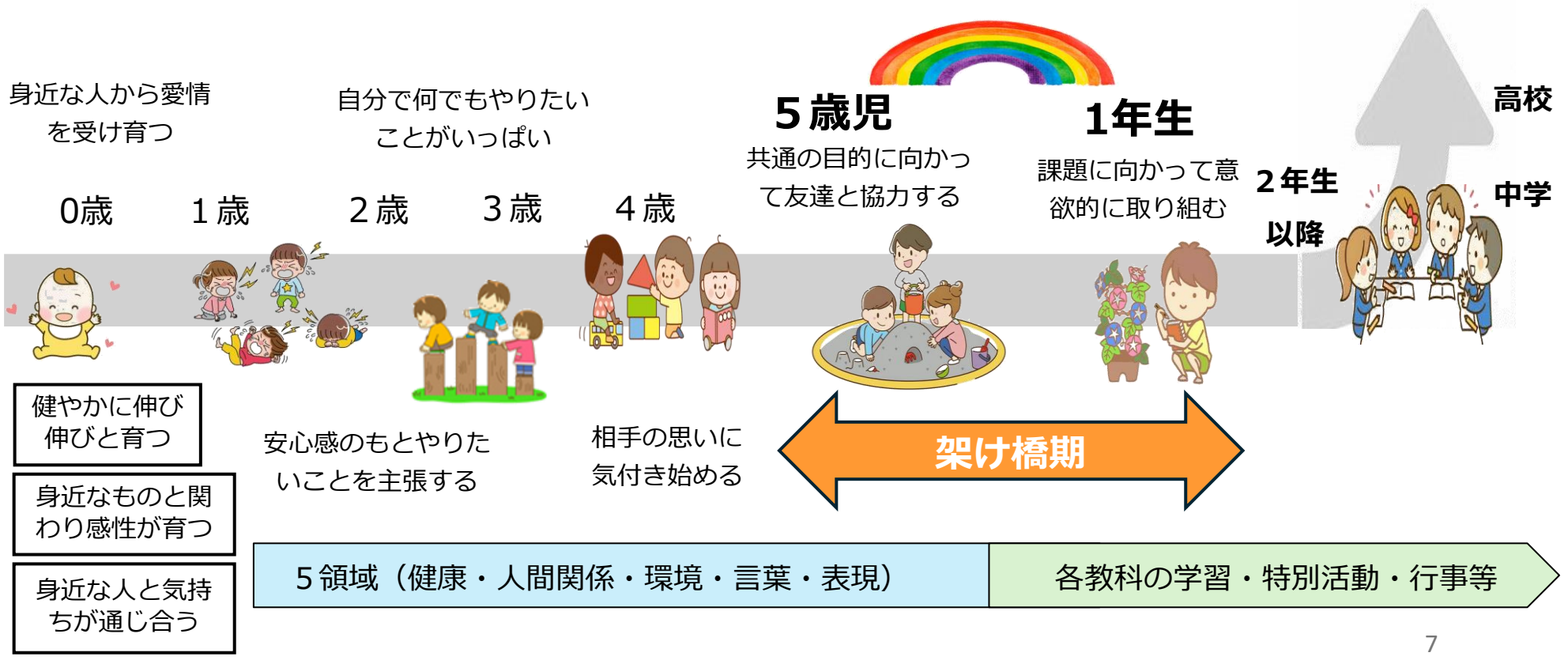
　義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の２年間は、**生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期**です。この時期を**「架け橋期」**と言います。

　この時期の教育については、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校（以下保幼こ小という）という多様な施設がそれぞれの役割を担っています。子供の成長を切れ目なく支える観点からは、保幼こ小の円滑な接続をより一層意識し、**乳児や幼児それぞれの特性など発達の段階を踏まえ、一人一人の多様性や０～１８歳の学びの連続性に配慮**しつつ、教育の内容や方法を工夫することが重要です。

　「保幼こ小の架け橋プログラム」は、子供に関わる大人が**立場を超えて、自分事として連携・協働し、**この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、**一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すもの**です。

○架け橋で何をつなぐの？

　幼児期での生活や遊びの中で育まれた資質・能力を小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へつないでいくことが大切です。また、「育みたい資質・能力」の三つ柱は、幼児教育から高等学校まで続けて育んでいくものとして各要領・指針等に共通して示されています。その資質・能力を切れ目なくつなげていくためには、**園と小学校が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、育ちや学びの連続性・一貫性を意識したカリキュラムに基づいたそれぞれの時期にふさわしい教育活動を展開しながら、資質・能力を育んでいくことが重要**です。



○今までと何が違うの？

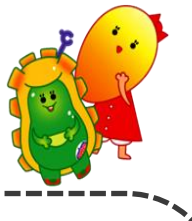
　これまで、各幼児教育施設や小学校において接続期カリキュラム（幼児教育施設：アプローチカリキュラム、小学校：スタートカリキュラム）の作成・実施がなされてきました。

　しかし、接続期カリキュラムを各園・小学校がそれぞれで作成しており、「カリキュラムの理念が共通していない」「取組が交流や入学時の学校適応でとどまっている」「施設類型の違いを超えた共通性が見えにくい」等の課題を踏まえ、更に取組を充実させていく必要があります。

	これまで	これから
目　的	小学校への適応	学びの連続性
内　容	交流活動	カリキュラムの編成
期　間	入学前後の数か月	5歳児から小学校１年生までの２年間
実施単位	施設単位	地域単位

ポイントは

協働 ⇔ 対話



○全ての子供の生涯における学びや生活の基盤を育むために、**架け橋期の子供に関わる大人が連携・協働した「体制づくり」**が大切です。

○各小学校区において、**子供の姿を真ん中においた語り合い（対話）を通して、**「どのような子供に育ってほしいのか」「どのような力を育みたいのか」等を見出しながら、架け橋期のカリキュラムを作成・実施していくことが大切です。

4　架け橋期のカリキュラム作成に向けて

「架け橋期のカリキュラム」作成において大切なことは、幼児教育施設と小学校の先生方で**子供の姿を真ん中に語り合える体制を作り、**互いの教育内容や方法の違いを**尊重し理解し合いながら相互理解を深めていくこと**です。カリキュラムを作ることのみを目的にするのではなく、**実践を可視化して共通に大切にしたいことを共有**しながら、できるところから進めていきましょう。

①フェーズ１　基盤づくり

✓	架け橋期のカリキュラム	実施に必要なこと	活用できる参考様式・資料等
□	園長・校長及び担任間の関係づくりをしているか？	連携窓口があるか？	
□	園・小学校での子供の生活の流れや活動について共有しているか？		・公開保育参観シート ・小学１学年スタカリ期小学校訪問＜参観シート＞
□	保幼こ小間で子供の交流をしているか？	自園・自校の先生が保幼こ小の連携・接続に積極的に、全員参画しているか？	・交流活動計画書

市HP幼児教育センターのページからダウンロードできます。

★実施のポイント

〇校区内の幼児教育施設と小学校で顔の見える関係をつくる。

管理職や担任間で連携の目的や方向性等について共通理解を図ることが大切です。

〇幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の共有する。

幼児教育施設で撮影した活動記録動画や写真を活用し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに話し合う研修も有効です。

〇相互参観及び事後の意見交換会を実施する。

互いの教育内容や教育方法について相互理解を深めるために、相互参観後に意見交換会を持つことが大切です。

②フェーズ２　検討・開発

✓	架け橋期のカリキュラム	実施に必要なこと	活用できる参考様式・資料等
□	少なくとも5歳児～小1の2年間を対象とした架け橋期のカリキュラムがあり、保幼こ小の共通の視点があるか？	保幼こ小の合同会議（架け橋期のカリキュラム検討チーム）があるか？	・沖縄県黄金っ子架け橋サポートガイドワークシート３～５（３） ・架け橋タイムワークシート
□	教材としての環境の共通理解があるか？	相互の教育の内容や方法に関して保幼こ小の先生が話し合っているか？	
□	事前・事後打ち合わせ等、幼児と児童の双方に学びがある交流を工夫しているか？		・交流活動計画書

★実施のポイント

○カリキュラムの「共通の視点（縦軸）」を明確化する

　関係者が共通の視点をもって子供の育ちと学びを考え、幼児教育と小学校教育をつなげる工夫が大切です。本ガイドの共通の視点（カリキュラムの縦軸①～6）を参考としながら、各小学校区の実態に応じてカリキュラムの共通の視点を決定します。

○「育てたい子どもの姿（力）」について話し合う

　園と小学校ともに教育課程等を持ち寄って、互いの理念や教育目標等をすり合わせながら、「育てたい子どもの姿（力）」について話し合い、共通のイメージを持つことが大切です。

○園と小学校の職員で意見交換しながら一緒に作成する

　まず、校区内の幼児教育施設間で互いのカリキュラムの内容や指導方法等について共通理解を図ります。その後、「育てたい子どもの姿（力）」に迫るための共通実践等を互いで意見を出し合いながら見出していきます。見出した教育活動や指導上の留意事項等をまとめ、小学校と内容の共有を行いながら、幼児期での遊びを通した学びと小学校の各教科等とのつながりについて考えていきます。

③フェーズ３　実施・検証

✓	架け橋期のカリキュラム	実施に必要なこと	活用できる参考様式・資料等
□	カリキュラムの共通の視点は実践に生かされているか？	保幼こ小の合同会議で話し合う内容は深まっているか？	・沖縄県黄金っ子架け橋サポートガイド ワークシート３～５（３）
□	教材としての環境の活用について、保幼こ小の先生が一緒に考える機会があるか？	接続する園・小学校の実践について、実感を伴った理解のもと、話し合っているか？（公開保育・公開授業・保育参観・授業参観等）	※モデル校区実践をもとに資料を作成する。
□	子供の自発的な交流が生まれるよう、保幼こ小の先生が協働して工夫しているか？		モデル校区においての交流活動事例の資料を作成する。

★実施のポイント

〇架け橋期のカリキュラムが実践に生かされているか、実践事例をもとに検証する。

　架け橋期のカリキュラムは作成して終わりではありません。実践事例をもとに保幼こ小の職員間で振り返りながら、内容等の見直しを図ることが大切です。

〇フェーズ２の架け橋期のカリキュラム検討中も実践事例の収集・検証を行う。

　架け橋期のカリキュラムを全て完成させてから実践をするのではなく、子供の姿をイメージし、園・小学校互いの保育・教育実践について語り合いながら作成していくことが大切です。子供が主体的・対話的に遊び込んでいる姿や、主体的に自己を発揮し学びに向かっている姿の写真や動画、記録等を残しておき、架け橋期のカリキュラム検討の際にも活用できるといいですね。

④フェーズ４　改善・発展のサイクルの定着

✓	架け橋期のカリキュラム	実施に必要なこと	活用できる参考様式・資料等
□	フェーズ２～３のPDCAサイクルが確立し、持続的に改善・発展できる仕組みとなっているか？	定期開催が継続し、短期的、中長期的視点から話しあっているか？	
□	子供の自発的な交流が生まれるよう、保幼こ小の先生が協働して工夫しているか？	改善・発展のため、継続する園・小学校での子供の学びや生活を具体的にイメージしながら話し合っているか？	※令和８年度にワークシートを作成し、モデル校区で先行的に活用する。

★実施のポイント

〇最初から１００%完成を目指さず、実践を重視しながら改善していく。

　初めは、５０%くらいの完成度でも大丈夫です。保幼こ小で協働し、共通の視点で見直しながら改善していくことが大切です。

〇担当者が変わっても持続的・発展的に架け橋期のカリキュラムの見直しができる体制づくりをしていく。

　担当者が変わる場合は、これまでの内容等についてしっかり引き継いだ上で、新年度の子供の実態から見直しをしていくことが大切です。また、ワークシート等を活用して、保幼こ小の職員間で架け橋期の教育について学びを深め合いながら、双方の実践を改善・発展する過程が大切です。

（令和6年度豊見城市架け橋期カリキュラム検討委員会委員）

平良　智子	豊見城市立上田こども園　園長
渡口　玲子	豊見城市立座安保育所　所長
大城　さつき	豊見城市子育て支援センターぐっぴー　所長
東　美咲	豊見城市役所保育こども園課　主幹
上原　恵二	豊見城市教育委員会学校教育課　指導主事

（参考文献等）

〇幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

〇小学校学習指導要領

〇やまなし幼児教育センター　やまなし保幼小連携・接続ガイド

〇茨城県教育委員会　架け橋カリキュラム作成ガイドブック

〇高知県教育委員会　架け橋期のカリキュラム

〇滋賀県教育委員会　学びをつなぐ幼保小架け橋ガイドブック

〇沖縄県教育庁義務教育課　黄金っ子架け橋サポートガイド

〇糸満市教育委員会学校教育課　糸満市架け橋期のカリキュラム

〇南城市教育委員会幼児教育センター　南城市架け橋期カリキュラム作成ガイド

〇八重瀬町教育委員会学校教育課　八重瀬版架け橋期のカリキュラム

（資料提供及び作成協力園・小学校）

豊見城市架け橋期モデル校区【上田小学校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）】

子どもが活きる
夢と希望にみちたまち

豊見城市架け橋期のカリキュラム【小学校】
～「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響むまちの教育～

豊見城市のめざす子ども像　自立　協働　創造

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し行動する子

共通の視点／キーワード	主体的・対話的で深い学び
学びのプロセス	思いや願いをもつ → 経験を生かす → 活動や体験をする → 感じる・考える・行為する・表現する → 振り返る → 生かす・広げる

第1学年で共通して大切にしたい経験とめざす子どもの姿

期待感をもつ　安全に過ごす　試す　伝える　友達の良さに気付く　力を合わせる　創造する　身近な人について考える　相手の気持ちを想像する　感謝の気持ちをもつ　振り返る　成長に気付く

- 学校生活に慣れ親しむ
- 試行錯誤する
- 安心感をもつ
- 生活や学習への見通しをもつ
- 調べる　工夫する
- 友達と協働しながら学ぶ
- 身近な自然、生活や地域を知る
- 進級への意欲や期待感をもつ
- 自己発揮する（幼児期の経験を生かす）
- 課題を見つける
- 新しい人間関係を築く
- 考える　気付く　話し合う　伝え合う　感じる　達成感を味わう　生活上必要な習慣や技能を習得する　愛着をもつ　自分の生活に取り入れる　自信をもつ　充実感を味わう
- 教師や友達と様々な活動を楽しむ　予測する（自分なりの仮説を立てる）　調べる

生活科を中心とした活動・他教科との関連

4　5　6　7　8　9　10　11　12　1　2　3

国語・算数・生活・音楽・体育・図工工作・道徳・特別活動

- きれいに さいてね わたしのはな（生活・国語・算数・図工工作）
- わくわく どきどき しょうがっこう（生活・国語・算数・図工工作・特別活動・道徳）
- きせつと なかよし はる・なつ
- なかよく なろうね 小さな ともだち
- きせつと なかよし あき
- かぞくにこにこ 大さくせん
- きせつと なかよし ふゆ
- もうすぐ 2年生

スタートカリキュラム

- よろしくね（国語）
- かきたいものなあに（図工工作）

生活科の単元　他教科　合科　関連

指導上の配慮事項

○教師の関わり

遊びの要素を取り入れた教育活動の工夫（1年生にとっての楽しい授業作り）

- 丁寧に見取る（対話）
- 一緒に楽しむ
- 共感する
- 安心を生み自立を支える（伴走者としての視点）幼児期での学びを各教科へ生かす
- 楽しさ・やってみたいを引き出す
- 気付きの質を高める
- 活動の見通しをもたせる
- 問いや思い、願いを引き出す
- 任せる・信じる
- 自己選択・意思決定を尊重する
- 手応え感覚を持たせる

共主体
探究

□環境構成

- 親しんできた遊具・用具、遊びコーナーの設置、リラックスできるスペースの確保
- 授業（活動）につながるものを掲示する（学びの種を仕込む、仕かける）
- 試行錯誤や繰り返す活動を設定する
- 伝え合い交流する場を工夫する
- 「ともだち」「みんなで」「ぐんぐん」「すくすく」の4つの活動で1日の流れ（生活リズム）を構成する
- 安心して活動し主体的に自己を発揮し学びに向かえる環境を意図的につくる
- 振り返り表現する機会を設ける
- 学びを豊かにする多様な学習活動の設定する
- 視覚的な表示の工夫（子供の目線に合った高さに留意）
- 各教科の学びにつながる遊具、用具の設置

家庭や地域との連携
◎家庭　★地域

◎スタートカリキュラムについて説明・取組への理解を図る（4月）
（就学前保護者向けリーフレット「わくわく！1年生」の活用）

◎★てくてく登校の推進を図る（通年）

信頼関係

◎★子供たちに様子をスタカリ通信や、学年だよりなどを通して発信し、教育活動を可視化する（通年）

★育ちや学びを深める・広げる地域資源（ひと・もの・こと）とのつながりと活用（通年）

子ども・職員の交流・個への対応及び共通理解						
情報交換会（入学当初の環境について）	第1回連絡部会（役割と年間計画の確認）	校区授業参観および協議会（スタカリ実践の振り返り）	校区保育参観および協議会（5歳児後半のカリキュラムについて）	校区授業参観および協議会（秋・冬の単元について）	合同研修会（架け橋期のカリキュラムの振り返り）	第2回連絡部会（実践発表・交流活動の振り返り）

子どもが活きる
夢と希望にみちたまち

○○小学校区架け橋期のカリキュラム【小学校（解説）】
～「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響むまちの教育～

○○小学校区においてめざす子ども像　自立　協働　創造

各園・小学校の教育・保育目標を確認しながら、校区におけるめざす子ども像を設定してください。

「自立」「協働」「創造」の３つのキーワードは、教育振興基本計画（国）に基づくものです。

学びのプロセスは、全小学校共通です。

共通の視点／キーワード	主体的・対話的で深
学びのプロセス	思いや願いをもつ → 経験を生かす → 活動や体験をする → 振り返る
第１学年で共通して大切にしたい経験とめざす子どもの姿	期待感をもつ　安全に過ごす　試す　友達の良さに気付く　身近な人について考える　感謝の気持ちをもつ　振り返る 学校生活に慣れ親しむ　試行錯誤する 伝える　力を合わせる　創造する　相手の気持ちを想像する　成長に気付く 安心感をもつ　生活や学習への見通しをもつ　調べる　工夫する　友達と協働しながら学ぶ　身近な自然、生活や地域を知る　進級への意欲や期待感をもつ 自己発揮する（幼児期の経験を生かす）　課題を見つける 感じる　生活上必要な習慣や技能を習得する　自信をもつ 伝え合う　達成感を味わう　愛着をもつ　自分の生活に取り入れる　充実感を味わう

小学校学習指導要領と他県のカリキュラムを参考としながら考えためざす子供の姿です。市内全小学校共通の内容です。原則、変更しないでください。

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

生活科を中心とした活動・他教科との関連

生活科の単元　他教科　合科　関連

国語・算数・生活・音楽・体育・図工工作・道徳・特別活動

きれいに さいてね
わたしのはな
（例）（生活・国語・算数・図工工作）

わくわく どきどき しょうがっこう
（例）（生活・国語・算数・図工工作・特別活動・道徳）

きせつと なかよし はる・なつ

なかよく なろうね
小さな ともだち

きせつと なかよし
あき

かぞくにこにこ
大さくせん

きせつと なかよし
ふゆ

もうすぐ
2年生

スタートカリキュラム

□の部分を各小学校で考え、生活科を中心とした学習活動から教科等を中心とした学習活動へ円滑につなげましょう。

（例）よろしくね（国語）

（例）かきたいものなあに
（図工工作）

指導上の配慮事項	○教師の関わり	安心を生み自立を支える
	□環境構成	安心して活動し主体的に自己を発揮し学びに向かえる環境
家庭や地域との連携 ◎家庭　★地域		信頼関係の構築
子ども・職員の交流・個への対応及び共通理解		

学習指導要領を参考としながら、各小学校で校区で開催する連絡部会において、小学校で考えた内容を就学前施設と共有してください。その際、就学前施設の考えや意見も反映させながら保幼こ小で一緒になって考え、教育活動の充実・改善、指導の工夫につなげます。

校区で開催する連絡部会において、小学校で考えた内容を就学前施設と共有してください。

ねらいをもち、保幼こ小で共有しながら、互恵性のある交流にしましょう。（年間計画を記載）
※前半（７月又は８月）と後半（１月又は２月）年２回、各校区で架け橋期について振り返りを行いましょう。

5月の第１回連絡部会で決定したことを記載します。

子どもが活きる
夢と希望にみちたまち

豊見城市架け橋期のカリキュラム（就学前教育・保育施設）
～「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響むまちの教育～

豊見城市のめざす子ども像　自立　協働　創造

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し行動する子

共通の視点／キーワード	主体的・対話的で深い学び
遊びや学びのプロセス	心を動かす（興味・関心）→ 遊びをくり返す（試行錯誤）→ 振り返る → 更に工夫して遊ぶ → 充実感・達成感を味わう

5歳児で共通して大切にしたい経験とめざす子どもの姿

- 様々な人やものとのかかわる
  - 安心し喜んで登園する
  - 自分の思いや考えを出し合う
  - 感じたことや考えたことを伝え合う
  - 目当てに向かって自分の力を十分に発揮する
  - 最後までやり遂げた満足感を味わう
- 言葉で伝え合うことを楽しむ
  - 相手の気持ちに気付く
  - 友達とのかかわりを深める
  - 物事をやり遂げようとする気持ちをもつ
  - 友達関係を深める
- 多様な体験をする
  - 気の合う友達と好きな遊びをする
  - イメージに合う素材を選ぶ
  - 共通の目的に向かって友達と力を合わせる
  - 言葉や文字数量などを使って遊ぶ
  - 励まし合って最後までやり遂げる
- 仲間意識が芽生え友達と共に生活する楽しさを知る
  - 年下の子に関心をもち思いやりの気持ちをもってかかわる
  - 色々な方法で表現する
  - 友達と目的に向かって相談したり工夫したりして力を合わせて遊ぶ
  - 小学校生活への期待をもって生活する
- 自信をもって行動し就学への意識が高まる
  - 園生活に必要なきまりや習慣を身につける
  - 季節の変化に気付き試したり調べたりする

校区で共通して取り組みたい活動

主体的な遊び込み
協同的な遊び込み
創造的な遊び込み
→ 探究（遊び込み）

4 5 6	7 8 9 10	11 12 1 2 3
様々な環境と出会う時期	遊びが充実し自己を発揮する時期	人間関係が深まり学び合いが可能となる時期

新しいクラスになったよ
- 好きな遊びを見つける
- 先生や友達と一緒に遊ぶ
- 春の自然や身近な生き物に親しむ

いろんなことをやってみたいな
- 水や砂などを使って遊ぶ
- 身近な自然物を使って遊ぶ
- 体を動かして遊ぶ
- なりきって遊ぶ
- 描いたり作ったりして遊ぶ

作ったもので遊ぶって楽しいな
- 秋の自然に触れて遊ぶ
- 描いたり作ったり飾ったりして遊ぶ

みんなで進めるって楽しいな
- 共通の目的に向かって遊びを進める
- ルールのある遊びを楽しむ

寒さに負けないぞ
- 冬を肌で感じる
- 伝承遊びを楽しむ

いろんなことができるようになったよ
- 自分たちで活動を進める

☆自分の身の回りのことは自分でする　◎見通しをもって生活する、自主的に行動する

☆手洗い・うがい・歯磨き　☆トイレの使い方・排泄の仕方　☆衣服の着脱・服のたたみ方・片付け方　☆ロッカーの整理整頓　☆正しい箸の持ち方・使い方　☆食事のマナー
◎規則正しい生活リズム　◎時計を見て、見通しを持って行動する　◎交通ルールを知る　◎自らあいさつをする

指導上の配慮事項

○保育者の関わり

- 共感・応答する（対話）
- 尊重する
- 一緒に考える（協働）
- 問いかける

一人一人の心の安定・保育者と友達との関係性づくり

- 子ども同士をつなぐ
- 共に振り返る
- 共有する
- 達成感・充実感・喜びを共に味わう

共主体
探究（遊び込み）

□環境構成

- 視覚的な表示の工夫（マーク・文字・数字など）
- 好きな遊びに没頭できる時間の確保
- くり返し挑戦する・試す・考える場の用意
- 親しんできた遊具・遊びコーナーの用意
- 素材・材料の用意（自然物・廃材など）
- 好奇心・探究心を育む環境（図鑑、虫眼鏡などを用意）

子どもと一緒に生活や遊びの場づくり

- 数える・比べる・分類する・試すなどができるような道具や用具、素材の用意
- 活動を振り返る場の設定（言語活動の充実）
- 就学への期待を膨らませる環境（掲示物など）
- 作る・作ったもので友達と遊ぶ場や時間の確保

家庭や地域との連携
◎家庭　★地域

◎★幼児期における遊びを通しての学びについて理解の促進（保育ドキュメンテーションなどの活用「通年」）

★育ちや学びにつながる地域資源（ひと・もの・こと）とのつながりと活用（通年）

信頼関係

◎就学に関する情報の提供・相談
（就学前保護者向けリーフレット「わくわく！1年生」の活用）

子ども・職員の交流・個への対応及び共通理解							
	情報交換会（入学当初の環境について）	第1回連絡部会（役割と年間計画の確認）	校区授業参観および協議会（スタカリ実践の振り返り）	校区保育参観および協議会（5歳児後半のカリキュラムについて）	校区授業参観および協議会（秋・冬の単元について）	合同研修会（架け橋期のカリキュラムの振り返り）	第2回連絡部会（実践発表・交流活動の振り返り）

高知県の枠を参考にして作成

子どもが活きる
夢と希望にみちたまち

○○小学校区架け橋期のカリキュラム【就学前教育・保育施設（解説）】
～「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響むまちの

○○小学校区においてめざす子ども像　自立　協働　創造

各園・小学校の教育・保育目標を確認しながら、校区におけるめざす子ども像を設定してください。

「自立」「協働」「創造」の３つのキーワードは、教育振興基本計画（国）に基づくものです。

共通の視点／キーワード	主体的・対話
遊びや学びのプロセス	心を動かす（興味・関心）→ 遊びをくり返す（試行錯誤）→ 振り返る → 更に工夫して遊ぶ → 充実感・達成感を味わう
5歳児で共通して大切にしたい経験とめざす子どもの姿	安心し喜んで登園する／自分の思いや考えを出し合う／感じたことや考えたことを／様々な人やものとのかかわる／相手の気持ちに気付く／気の合う友達と好きな遊びをする／言葉で伝え合うことを楽しむ／様々な体験をする／イメージに合う素材を／持ちをもってかかわる／園生活に必要なきまりや習慣を身につける／とする気持ちをもつ／活する楽しさを知る／色々な方法で表現する／友達と目的に向かって相談したりエ夫したりして力を合わせて遊ぶ／季節の変化に気付き試したり調べたりする／最後までやり遂げた満足感を味わう／友達関係を深める／言葉や文字数量などを使って遊ぶ／励まし合って最後までやり遂げる／自信をもって行動し就学への意識が高まる／小学校生活への期待をもって生活する
	6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
	う時期 ／ 遊びが充実し自己を発揮する時期 ／ 人間関係が深まり学び合いが可能となる時期

※沖縄県「幼稚園教育課程編成のために」より抜粋しています。各時期に５歳児に必要な姿および経験となるため、市内全就学前施設共通の内容です（変更しないでください）。

※校区で共通で取り組みたい活動を３つの活動の柱（視点）で考えましょう。また、校区で実践を振り返る視点としても活用してください。

校区で共通して取り組みたい活動

- 主体的な遊び込み
- 協同的な遊び込み
- 創造的な遊び込み

↓

探究（遊び込み）

コーナー遊び／室内ゲーム／鬼遊び／（例）年長組になったよ／散歩／飼育／自然物 生き物／栽培

※まずは、就学前施設間で子どもの姿を中心に語り合ってください。その中で見えてきた子どもの姿（良さや課題）を踏まえて、共通して重点的に取り組みたい活動（遊びの経験）を可視化していきます。　※各園それぞれ特色を尊重し合いながら話し合うことが大切です。

※架け橋期のカリキュラムにおいては、小学校での学習や生活を見通すことが必要です。

※小学校教育の前倒しではなく、将来の学び・生きる力の基礎となる体験を幼児期にふさわしい形で実現させていくことが大切です。
（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいた教育・保育活動の実施）。

【基本的な生活習慣】

指導上の配慮事項	○保育者の関わり	共通して取り組みたい活動を踏まえて大切にしたい保育者の関わり、環境構成の工夫を記載しましょう。
	□環境構成	
家庭や地域との連携 ◎家庭　★地域		ねらいをもち、保幼こ小で共有しながら、互恵性のある交流にしましょう。（年間計画を記載） ※前半（７月又は８月）と後半（１月又は２月）年２回、各校区で架け橋期について振り返りを行いましょう。
子ども・職員の交流・個への対応及び共通理解		

校区で開催する連絡部会で就学前施設間で考えた内容を小学校と共有してください。その際、小学校の考えや意見も反映させながら保幼こ小で一緒になって考えていくことを大切をしましょう。

5月の第１回連絡部会で決定したことを記載します。

子どもが活きる
夢と希望にみちたまち

上田小学校区架け橋期のカリキュラム（上田小学校）
～「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響むまちの教育～

上田小学校区においてめざす子ども像　自立　協働　創造

豊かな心でたくましく生きる子

共通の視点／キーワード	主体的・対話的で深い学び
学びのプロセス	思いや願いをもつ → 経験を生かす → 活動や体験をする → 感じる・考える・行為する・表現する → 振り返る → 生かす・広げる

第1学年で共通して大切にしたい経験とめざす子どもの姿

期待感をもつ　安全に過ごす　試す　友達の良さに気付く　身近な人について考える　感謝の気持ちをもつ　振り返る

学校生活に慣れ親しむ　**試行錯誤する**

力を合わせる　伝える　創造する　相手の気持ちを想像する　成長に気付く

安心感をもつ　**生活や学習への見通しをもつ**　調べる　工夫する　**友達と協働しながら学ぶ**　**身近な自然、生活や地域を知る**　**進級への意欲や期待感をもつ**

自己発揮する（幼児期の経験を生かす）　**課題を見つける**

考える　感じる　生活上必要な習慣や技能を習得する　自信をもつ

新しい人間関係を築く

気付く　話し合う　達成感を味わう

教師や友達と様々な活動を楽しむ　予測する（自分なりの仮説を立てる）　調べる　伝え合う　愛着をもつ　自分の生活に取り入れる　充実感を味わう

4　5　6　7　8　9　10　11　12　1　2　3

生活科を中心とした活動・他教科との関連

生活科の単元　他教科　合科　関連

はじめの いっぽ

きれいに さいてね わたしのはな

国語・算数・生活・音楽・体育・図工工作・道徳・特別活動

どんな歌があるかな（音楽）

1年生作品のまとめ（図工）

わくわく どきどき しょうがっこう

きせつと なかよし はる・なつ

なかよく なろうね 小さな ともだち

きせつと なかよし あき

かぞくにこにこ 大さくせん

きせつと なかよし ふゆ

もうすぐ 2年生

スタートカリキュラム

よろしくね（国語）

かきたいものなあに（図工工作）

大きくなった（国語）

しらせたいな、みせたいな（国語）

いいこといっぱい1年生（国語）

指導上の配慮事項

○教師の関わり

○園での経験を引き出す投げかけをし、子どもと一緒に活動の流れを考える。

○「やってみたい」「しりたい」「できるようになりたい」と思えるような学習対象との出会わせ方、思いや願いを大切にできるような学習展開を工夫する。

安心を生み自立を支える

○学習指導要領を参考にする。

例　第4節　学習指導の進め方

1　試行錯誤や繰り返す活動を設定する。2　伝え合い交流する場を工夫する。

3　振り返り表現する場を設ける。4児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする。（小学校学習指導要領解説　生活科）

学習内容によって適宜繰り返していく。

□環境構成

視覚的な表示の工夫（マーク・文字・数字など）

就学前施設における環境（教材）の工夫を適宜取り入れ

親しんできた遊具・遊びコーナーの用意

視覚的に訴える板書の工夫（通年）

安心して活動し主体的に自己を発揮し学びに向かえる環境

学びの足跡の掲示（通年）

子どもが集まって活動できる工夫（ワークスペース等）

家庭や地域との連携
◎家庭　★地域

◎目指す子どもの姿と共にスタカリ期の学校生活や授業で大切にしていることを、保護者説明会等で知らせる。

信頼関係の構築

子ども・職員の交流・個への対応及び共通理解			校区授業参観および連絡部会		校区保育参観				校区保育参観および連絡部会		第2回連絡部会（実践発表）

子どもが活きる
夢と希望にみちたまち

上田小学校区架け橋期のカリキュラム【上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）

～「ゆめ」「まなび」「ひと」を大事にする響むまちの教育～

上田小学校区においてめざす子ども像　自立　協働　創造

豊かな心でたくましく生きる子

共通の視点／キーワード	主体的・対話的で深い学び
遊びや学びのプロセス	心を動かす（興味・関心）→ 遊びをくり返す（試行錯誤）→ 振り返る → 更に工夫して遊ぶ → 充実感・達成感を味わう
5歳児で共通して大切にしたい経験とめざす子どもの姿	安心し喜んで登園する／自分の思いや考えを出し合う／感じたことや考えたことを伝え合う／目当てに向かって自分の力を十分に発揮する／最後までやり遂げた満足感を味わう 様々な人やものとのかかわる／相手の気持ちに気付く／友達とのかかわりを深める／物事をやり遂げようとする気持ちをもつ／友達関係を深める 気の合う友達と好きな遊びをする／言葉で伝え合うことを楽しむ／共通の目的に向かって友達と力を合わせる／言葉や文字数量などを使って遊ぶ／励まし合って最後までやり遂げる 多様な体験をする／イメージに合う素材を選ぶ／仲間意識が芽生え友達と共に生活する楽しさを知る／自信をもって行動し就学への意識が高まる 年下の子に関心をもち思いやりの気持ちをもってかかわる／色々な方法で表現する／友達と目的に向かって相談したり工夫したりして力を合わせて遊ぶ／小学校生活への期待をもって生活する 園生活に必要なきまりや習慣を身につける／季節の変化に気付き試したり調べたりする
校区で共通して取り組みたい活動 主体的な遊び込み 協同的な遊び込み 創造的な遊び込み ↓ 探究（遊び込み）	4 5 6 ｜ 7 8 9 10 ｜ 11 12 1 2 3 様々な環境と出会う時期 ｜ 遊びが充実し自己を発揮する時期 ｜ 人間関係が深まり学び合いが可能となる時期 気づき発見／工夫する力／自律性／活動意欲／自己肯定感／協力する／伝え合う／粘り強さ／文字・数・図形への気づき／見通しを持つ 季節や自然を取り入れる遊び／手先を使った遊び／工夫して作る遊び／体を動かす遊び／イメージを共有する遊び／友達と協力する遊び／伝える活動／チャレンジする遊び／ルールのある遊び／自分たちで決める遊び／知的好奇心を育てる遊び **【基本的な生活習慣】**
指導上の配慮事項 ○保育者の関わり		○遊びや生活の中で自己肯定感を育む ○生活に必要な習慣を身につけ、自律性を育む ・自分たちで決めたルールや決まりを守って気持ちよく生活を送れるようにする。 ○共通の願いや目的が生まれ、工夫したり協力したりする楽しさを十分味わうことができるよう援助する。
指導上の配慮事項 □環境構成		○活動の見通しが持てるような表示の工夫 ・文字や数・図形に触れられるように環境を整える ○子どもたちが自分たちでできるよう生活の場を整える。
家庭や地域との連携 ◎家庭　★地域		★校区内3園間、園児交流・職員交流
子ども・職員の交流・個への対応及び共通理解		

ワークシート２

活動の中での具体的な幼児の姿を通して話し合ってみましょう。
「砂場での遊び」の姿を例に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えてみましょう。

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

「砂場で水を流す遊び」

５歳児と４歳児が一緒に遊んでいる。

子どもたちは、水を流そうと一生懸命穴を掘っている。

保育者は、子どもたちが水を流せるよう「とい」を用意した。

そのうち子どもたちは「とい」を使って、水の滑り台をつくり始めた。

水を運ぶ子、水を流そうとする子、流れた水を溜めようと穴を掘る子、「とい」がうまくつながるよう高さを調節する子、じっと見守る子などがいる。

思考力の芽生え

自然への関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

ワークシート３

各園・小学校の育てたい子どもの姿をもとに「期待する子ども像」について話し合いましょう。

園・小学校名						
育てたい 園児の姿 児童の姿						
期待する子ども像						

ワークシート４

遊びを通して、幼児がどのような学び（体験）を得て深めているのか、活動の中での具体的な幼児の姿を通して話し合い、理解を深めましょう。

進め方の例
① 写真をもとに園の先生がエピソードを語る。
② 各自付箋紙に書く（～することを通して、～の力を身につけている）
③ 各自の付箋紙をワークシートに貼り付けながら、発言する（似ている意見同士を近くに貼っていく）
④ 共通する事柄をキーワードとして書き出す。

人数に応じて拡大印刷してください。写真は自園の写真がある場合は差し替えてご活用ください。

ワークシート５（１）　　幼児期の学びをいかした授業改善について、生活科の学習をもとにして話し合いましょう。

★生活科の学習をもとに語り合おう★　「はなをさかせよう」

第１学年 内容⑺「動植物の飼育・栽培」

小単元名	学習活動例
たねを まこう （2時間）	・幼児期の栽培経験を教え合い、教科書を見て植物の花を確認したり、実際にたねを観察したりしながら育てたい植物を決め、たねをまくために必要なことについて話し合う。 ・たねまきをした感想を友達や先生に話したりカードにかいたりする。
はなを そだてよう （１時間）	（常時活動）朝の時間や休み時間などを使って、成長の様子を観察したり、鉢の置き場所や水やりの仕方などを相談したりして世話を続ける。 ・植物の世話をしていて気付いたことを紹介し合い、よりよい成長のために必要なことについて話し合う。
はなの ようすを つたえよう (2時間)	（常時活動）朝の時間や休み時間などを使って、植物の世話を続けながら、成長の様子を観察する。 ・咲いた花の写真を撮ったり、これまで撮りためた写真やカード、動画等を見たりしながら、開花の喜びを伝え合い、自分の世話を振り返る。
たねをとろう (3時間)	（常時活動）休み時間などを使って植物を観察し、たねを集める。 ・集めたたねを観察したり数えたりして、分かったことを紹介し合う。 ・これまでにかいた記録カードや撮った写真を活用して、これまでの栽培活動を振り返り、友達や先生と話す。 ・とったたねをどうするか話し合い、一人一人の思いに合わせて保存したり作品をつくったりする。

先生の関わりや子どもの学びや生活を豊かにする小学校の環境づくり

ワークシート５（２）　　幼児期の学びをいかした授業改善について、生活科の学習をもとにして話し合いましょう。

★生活科の学習をもとに語り合おう★ 「なつがやってきた」

第１学年 内容⑷「公共物や公共施設の利用」内容(5)「季節の変化と生活」内容(6)「自然や物を使った遊び」

小単元名	学習活動例
こうていで なつを さがそう （2時間）	・校庭で、動植物や風、光などを探したり、それらの様子を観察したりする。 ・草花や樹木を利用して遊びを工夫したり、遊びに使う物を工夫してつくったりして、気付いたことを、話したり見せたり記録カードにかいたりする。
こうえんで なつを さがそう （3時間）	・ルールやマナーを守りながら、学校と公園を往復したり、遊具や自然物を使ってみんなで遊んだりする。 ・教室に戻ってきて、公園での活動で楽しかったことや気付いたことについて発表する。
みずで あそぼう (2時間)	・これまでの水遊びの経験を教え合い、水を使った夏の遊びについて話し合ってから、友達と一緒に水を使った遊びを楽しむ。 ・水を使って遊んだり、遊びに使う物を工夫してつくったりして、みんなで遊ぶ。
あめあがりの こうていを たんけんしよう (1時間)	・雨上がりの自然との関わりを楽しむ。 ・晴れの日との違いから、雨上がりの自然の特徴を見付けたことを発表したり、記録カードにかいたりする。
なつの ことを つたえよう (1時間)	・夏の活動を振り返り、グループごとに言葉や動作などでお薦めの遊びを紹介し合い、これからしてみたいことなどについて記録カードにかく。

先生の関わりや子どもの学びや生活を豊かにする小学校の環境づくり

ワークシート５（３）

幼児期の学びをいかした授業改善について、生活科の学習をもとにして話し合いましょう。

★生活科の学習をもとに語り合おう★ 「あきのたからものをみつけよう」

第１学年 内容(5)「季節の変化と生活」内容(6)「自然や物を使った遊び」	
小単元名	学習活動
あきのたからものをみつけよう （5時間）	・校庭で秋みつけをする。 ・秋について知っていることや園などで経験したことのある遊びなどを出し合う。 ・校庭や公園などで秋みつけを繰り返し行ったり、気付いたことを自分なりの方法で表したりする。
あきのたからものでつくってあそぼう （8時間）	・秋の自然を利用して遊ぶ。 ・秋の自然や身近にある物を利用して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、作った物を使って遊んだりする。
あきのたからものでみんなであそぼう (4時間)	・「あきまつり」を開いて，みんなで楽しく遊ぶ。 ・これまでの活動を振り返り、秋の思い出や秋の自然と自分との関わりなどについて、言葉や絵で表現したり、伝え合ったりする。

沖縄県黄金っ子架け橋サポートガイド

先生の関わりや子どもの学びや生活を豊かにする小学校の環境づくり

ワークシート７（１）

★事例をもとに語り合おう★

４月の終わり頃、Aさんは、すぐ離席してお友達のところにいってしまいます。
席に着くよう注意すると、いったんは自分の席に戻りますが、またすぐに離席します。
Aさんが教室中を歩き回るので、授業がうまく進みません。

先生の関わり・環境の構成

ワークシート７（２）

★事例をもとに語り合おう★

４月の終わり頃、Bさんは、先生がクラス全体に話している途中に、「先生、私ね」「先生これはどうすればいい？」と個別に聞きにきます。「先生と自分」の関係しか見えず、先生と１対１の関係を求めてきます。
話が途中で途切れてしまうので、困ってしまいます。

先生の関わり・環境の構成

別紙

小学１学年スタカリ期小学校訪問＜参観シート＞

小学校　期日：令和６年４月　日（ ）　８時００分～1校時終了まで

＜参観の視点＞

（1） 本日の参観であなたが「良かった」と思ったことににについて、ありのまま書いてください。

（2） 児童の安心感や主体性を支えるための教師の関わりや環境構成の工夫等は、どのような場面で見られましたか。

（3） 園での経験を生かし、自己発揮できるような教師の関わりや工夫はどのような場面で見られましたか。

視点（1）について、お書きください。
視点（2）について、お書きください。
視点（3）について、お書きください。

「公開保育　参観シート」　（施設名）　　（氏名）

①あなたの「いいね」を自由にお書きください。（環境構成の工夫、保育者の援助、関わりなど）

②子どもたちは、どのようなことに興味・関心を持って楽しんでいましたか。（主体的・対話的で深い学び、遊び込んでいる姿）　※子どものつぶやきも拾い、記入してください。	
遊び込んでいる子どもの姿（※つぶやき記入）	育まれているだろう資質・能力と10の姿

③更に遊びを充実・発展させていくための環境構成や援助等のアイディアを記入してください。

架け橋タイム　ワークシート①（保育デザインマップ）

「架け橋期（5歳児後半）の保育について考えよう」

視点：協同的な学びが生まれる保育

子どもの願い・思い・つぶやき

子どもの願いや思いの実現につながる活動

環境構成・援助等

一番印象に残った（保育者の心が動いた場面・活動）を記入します。例えば、「製作」「砂遊び」など

Gakken「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育を参考にして作成　編著 大豆生田 啓友 玉川大学教授

架け橋タイム　ワークシート②（大切にしたいこと）
「架け橋期（5歳児後半）の保育について考えよう」

視点：協同的な学びが生まれる保育

「人間関係が深まり学び合いが可能となる時期」で大切にしたいことを考える
（市架け橋期のカリキュラムより）

思いつくものを付箋に書いて、自由に話し合いましょう

（様式１）　　豊見城市保幼こ小連携推進事業　交流活動記録簿

交流種別	幼児・児童間交流　　職員間交流　　連絡部会　　他（　　）			
活動名				
日時	令和　　年　　月　　日（　）	時　～　時		
実施場所		記録園・校		
参加者	施設名、園児、児童、職員の人数を記入してください			
活動ねらい・内容	ねらい			
	主な内容	例）おもちゃをつくろう、プールを一緒に楽しもう等		

１．活動の様子（写真と簡単な文書で構いません）

２．活動を振り返って（成果や課題、提案等）

＊活動時の写真を数枚、貼り付けてください。（どこに貼りつけても OK です）

＊記録簿の提出は、活動実施日から２週間以内に、メールにてデータで提出してください。

（令和6年度豊見城市架け橋期カリキュラム検討委員会委員）

平良　智子	豊見城市立上田こども園　園長
渡口　玲子	豊見城市立座安保育所　所長
大城　さつき	豊見城市子育て支援センターぐっぴー　所長
東　美咲	豊見城市役所保育こども園課　主幹
上原　恵二	豊見城市教育委員会学校教育課　指導主事

（参考文献等）

〇幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

〇小学校学習指導要領

〇やまなし幼児教育センター　やまなし保幼小連携・接続ガイド

〇茨城県教育委員会　架け橋カリキュラム作成ガイドブック

〇高知県教育委員会　架け橋期のカリキュラム

〇滋賀県教育委員会　学びをつなぐ幼保小架け橋ガイドブック

〇沖縄県教育庁義務教育課　黄金っ子架け橋サポートガイド

〇糸満市教育委員会学校教育課　糸満市架け橋期のカリキュラム

〇南城市教育委員会幼児教育センター　南城市架け橋期カリキュラム作成ガイド

〇八重瀬町教育委員会学校教育課　八重瀬版架け橋期のカリキュラム

（資料提供及び作成協力園・小学校）

豊見城市架け橋期モデル校区【上田小学校区（上田小学校・上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園）】